

第3回三重県循環器病対策推進協議会 議事概要

- 1 日時：令和4年3月22日（火）19:00 ~ 19:45
- 2 場所：WEB会議
- 3 出席者：伊藤委員、今井委員、馬岡委員、大内委員、大杉委員、大畑委員、小川委員、坂本委員、新保委員、園田委員、竹下委員、竹田委員、谷口委員、富本委員、内藤委員、西井委員、谷委員、菱沼委員、佐藤委員代理
- 4 議題：1（1）三重県循環器病対策推進計画（最終案）について
（2）第7次三重県医療計画における脳卒中対策、心筋梗塞等の心血管疾患対策の進捗状況について
2 その他

5 審議概要：

1（1）三重県循環器病対策推進計画（最終案）について（資料1）

（委員）

相談窓口が分かりにくいという意見があったが、患者としても非常に感じている。どこに相談したらいいのか分からない、どういった制度があるのか分からないという話を患者の間でもよく聞くので、情報公開や分かりやすい相談窓口の設置が非常に重要になってくると思う。

（事務局）

計画にも記載した重層的支援体制整備事業が創設され、各市町において相談窓口を一本化して丸ごと相談を受けるといった取組が始まっているところある。一方で、まだ全ての市町でそういった対応がされているわけではないので、先行的な市町の取組の状況をふまえて、横に広げていけるよう県としても市町の支援ができればと考えている。

（委員）

前回の協議会から本日の協議会を迎えるまでに三つの部会で議論をいただいているので、それぞれの部会長から発言いただきたい。

(委員)

部会から出た意見に関しては、きちんと最終案に記載していただいたので概ねこれでよいと思っている。

先ほど意見のあった、ワンストップでいろいろな情報が得られるような相談窓口については、必要であると思う。例えば、脳卒中協会では、各県の支部にそういうものを作っているが、ほとんど知られていないので情報公開やアナウンスが必要であると思った。また、県全体で1か所ではなくて、市町でそういったものがきちんと動くような体制、ワンストップで情報が得られる体制について、行政の方で前向きな検討をお願いしたい。

(委員)

主な意見は反映していただいているが、デジタル活用、さらに健診のデジタル化について議論があった。これらは、いずれもまだどのような形式でやっていくのか議論が進んでいないが、これから進めていこうというところで意見は一致しているので、今後、内容を詰めていきたい。

(委員)

基本的には、これまでの意見について反映されているという議論であった。専門家とかコメディカルという言葉についてよりはっきりと具体的に記載して欲しいという意見があったが、この最終案で反映されていたのでよいと思っている。

1(2) 第7次三重県医療計画における脳卒中対策、心筋梗塞等の心血管疾患対策の進捗状況について(資料2、資料3)

(委員)

心筋梗塞の年齢調整死亡率が上がっているのは、何か原因あるのか。

(事務局)

原因を明確に把握してはいないが、令和元年が良い数値であったということもあると思う。死亡者数でみると10人ぐらいの上昇なので、そこまで悪化したと言えるか分からないが、いずれにしても少し低下しているという状況なので、もう少し見極めていきたい。

2 その他(参考資料)

(委員)

国の施策の中にある循環器病情報センターについて、特に脳卒中のデータベー

スについては、悉皆性のあるものが今まで基本的になかったので、脳卒中患者数の推計値とかが結局ないというか、そういう大きな問題があった。

国立循環器病研究センターが中心となってどの程度悉皆性を持って行うとか何か情報はあるか。

（事務局）

循環器病情報センターに関しては、まず国立循環器病研究センターに置くということが決定したこと。そして、疾患としては、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、急性冠症候群、急性大動脈解離、急性心不全の六つが決定したところまでで、どのように悉皆性を持ってデータを取るのか、取れるのかについてはちゃんとした情報は掴めていない。

議論としては、悉皆性を持ってデータを取ることが難しい可能性がかなり高いので、まず、急性期の部分で多くをカバーするということが目標にされているのではないかと。まだ決まってないことが非常に多いのではないかとというふうに把握している。